

「『こんにちは県議会です』地域住民等との意見交換会」開催概要

- 1 開催日時 令和5年9月13日（水）午後2時～午後4時
- 2 開催場所 県庁議会棟、県内各地（オンラインによる開催）
- 3 参加団体 長野県インバウンド推進協議会、長野県索道事業者協議会、
長野県旅館ホテル組合会、（一社）長野県旅行業協会、
（一社）日本旅行業協会関東支部長野県地区委員会

4 出席議員

議 長	佐々木 祥二
副 議 長	埴橋 茂人
広報委員	丸茂 岳人、林 和明、グレート無茶、高村 京子、勝山 秀夫
会派選出議員	垣内 将邦（自由民主党県議団） 高島 陽子（改革信州） 奥村 健仁（新政策議員団）

5 意見交換テーマ

長野県観光の現状と目指すべき方向性～コロナ禍からの再生に向けて～

6 開催内容

各団体から県観光の現状認識等の発表、グループごとの意見交換・懇談

7 参加者 31名（議員10名、参加団体等21名）



○開会

(司会：埋橋副議長)

ただ今から「こんにちは県議会です」を始めます。

私は、本日の進行を務めます長野県議会副議長、広報委員会委員長の埋橋茂人でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○長野県議会議長あいさつ・県政報告

(埋橋副議長)

それでは、県議会を代表しまして、佐々木祥二議長からあいさつ及び県政報告を申し上げます。佐々木議長お願いします。

(佐々木議長)

皆様、こんにちは。長野県議会議長の佐々木祥二でございます。

本日は、「こんにちは県議会です」を開催しましたところ、皆様には大変お忙しい中、御参加をいただき誠にありがとうございます。

今回は、県議会でも積極的に取り組んでおりますデジタル技術を活用し、皆様が少しでも御参加いただきやすい環境でということで、オンラインによる開催といたしました。

せっかくの機会ですので、少し時間をいただきまして、最近の県議会の主な取組として、6月定例会での議論などについて、お話させていただきます。

6月定例会では、少子化・人口減少対策や、エネルギー・食料価格高騰への対応などを中心に議論が行われました。

県の将来を左右する最重要課題であります、少子化・人口減少に関しては、決算特別委員会以外では平成28年以来となる「少子化・人口減少対策調査特別委員会」を設置させていただきました。今後、国の動向も踏まえつつ、県の取組状況を調査し、県議会として必要な提案などを行うよう、取り組んでまいります。

次に、様々な価格の高騰により、コロナ禍からの回復途上にある皆様の生活や経済活動に、広く影響を及ぼしております。

知事からは、「物価高克服・経済構造転換のための総合対策」を実施するための約82億円の補正予算が提出され、議会で可決させていただきました。

また、本会議では、本日の意見交換のテーマにも関係します今後の観光支援対策について、需要喚起策中心の支援から観光需要の回復や変化に対応できるよう、事業者の皆様の新たな事業展開や生産性向上のための支援について議論が交わされたところでございます。

さて、去る7月31日から8月4日まで、阿部知事を団長とする長野県訪問団の一員として、私も中華人民共和国を訪問させていただきました。

渡航中は、北京市との冬季スポーツや観光などの分野における交流協力に関する覚書の締結など、訪問先との友好と更なる交流促進を図ってきたところでございます。県議会としても、双方にメリットとなる関係の構築に協力してまいりたいと思います。

その他、議会の活動については、定例会終了後に県議会の広報紙を発行し、新聞折り込みと県議会ホームページにも掲載しておりますので、是非御覧ください。

以上、最近の主な取組の紹介といたします。

さて、本日のテーマは、「長野県観光の現状と目指すべき方向性～コロナ禍からの再生に向けて～」とさせていただきます。

観光産業は、コロナ禍にあっては、繰り返す感染拡大の中、訪日客の大幅な減少や国内旅行需要の縮小により、大変厳しい状況におかれてきたと存じます。

これからの再生に向けて、インバウンドの推進や、観光ニーズの変化に対応した取組が必要であると考えております。一方で、インフラの維持や人材確保などの、様々な課題を抱えておられると承知しております。

本日は、長野県の観光を牽引していただいている皆様、「長野県インバウンド推進協議会」さん、「長野県索道事業者協議会」さん、「長野県旅館ホテル組合会」さん、「長野県旅行業協会」さん、「日本旅行業協会関東支部長野県地区委員会」さんから意見交換を通じまして、長野県観光の現状と目指すべき方向性について、それぞれのお立場から御意見など伺いたいと存じます。

本日、お聞きいたしました御意見などは、長野県観光の持続的発展の実現に向けて、議会活動等の参考にさせていただきたいと考えております。

結びに、本日の意見交換が活発に行われ、実り多きものになることを御期待申し上げ、挨拶といたします。

○出席議員自己紹介

(埋橋副議長)

それでは、本日の出席議員から自己紹介をいたします。順次、私から指名しますのでお願いします。初めに広報委員になります。丸茂岳人議員。

(丸茂議員)

茅野市・富士見町・原村選出の自民党県議団所属の丸茂岳人でございます。今日は、Bグル

ープの司会をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(埋橋副議長)

続いて、林和明議員。

(林議員)

皆様、こんにちは。上田・小県郡区選出の林和明と申します。本日、Aグループを担当させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(埋橋副議長)

続いて、グレート無茶議員。

(グレート無茶議員)

長野市・上水内郡区選出のグレート無茶でございます。今日は、Cグループを担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

(埋橋副議長)

続いて、高村京子議員。

(高村議員)

皆様、こんにちは。広報委員の高村京子と申します。上田・小県郡区選出です。共産党県議団に所属しています。今日は、Dグループを担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

(埋橋副議長)

続いて、勝山秀夫議員。

(勝山議員)

長野市・上水内郡区選出の勝山秀夫でございます。今日は、Eグループを担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

(埋橋副議長)

次に、会派選出議員になります。垣内将邦議員。

(垣内議員)

こんにちは。上伊那郡区選出の垣内将邦と申します。今日は、Cグループを担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

(埋橋副議長)

次に、高島陽子議員。

(高島議員)

皆さん、こんにちは。長野市・上水内郡区選出の高島陽子と申します。Eグループに参加します。よろしくお願いいたします。

(埋橋副議長)

最後に、奥村健仁議員。

(奥村議員)

皆さん、こんにちは。大町市選挙区選出の奥村健仁と申します。本日は、Dグループに参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

(埋橋副議長)

参加議員の紹介は以上です。

今回参加いただいた団体の皆様につきましては、恐れ入りますが、お手元の名簿の配付により御紹介に代えさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

本日の進め方ですが、事前にお送りした次第のとおり、各団体の代表者の方から団体等について紹介いただき、その後、5つのグループに分かれて意見交換を行います。グループ分けは、なるべく異なる団体との組み合わせとなるようにいたしました。

また、本日実施した内容については、録音、録画させていただき、概要を文書で取りまとめ、写真等とともに後日、県議会のホームページに掲載するなど、議会広報に活用させていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、今回はオンラインということで、万全の準備はしておりますが、場合によって、御不便をおかけすることがあるかもしれませんが、皆さんの御理解、御協力をお願いします。

○参加団体からの発表

(埋橋副議長)

それでは、本日御参加いただきました各団体の代表の方から、県観光の現状認識等について発表をお願いしたいと思います。進行の都合上、1団体3分以内でお願いを申し上げます。

初めに長野県インバウンド推進協議会さんお願いいたします。

(長野県インバウンド推進協議会)

ありがとうございます。

私から、長野県インバウンド推進協議会がどのような団体かというところを、まず御説明させていただきます。

長野県インバウンド推進協議会は、長野県のインバウンド推進に情熱・意欲のある関係者が、民間・団体・行政を含めて連携して、世界を魅了する観光地域づくりを目指しております。受入環境の整備を推進するとともに、海外のお客様のニーズは、国内のお客様のニーズとは全く異なりますので、そこに対しての旅行商品の造成、提供、プロモーション等を行っていくということで発足した団体でございます。

コロナ前の平成31年2月に発足しまして、発足後、まもなくコロナ禍になったというところもありますので、組織のあり方等を含めて、流動的かつ発展的に形つくっている状態であろうかと思っております。

会員は400事業者が在りまして、行政、DMOを中心とした民間の観光事業者の連携組織、そして宿泊事業者や交通事業者、飲食事業者、観光案内所等の民間事業者がそれぞれ複層的に御参加いただいている団体であります。

冒頭でお伝えしましたように、情熱・意欲のある関係者の皆様が、この協議会に入れるということで、広く御参加いただける協議会という立ち位置になろうかと思っておりますので、その分、かなり広いニーズというか、それぞれの御意向を持った方々が御参加されている組織になります。長野県という大きなものを背負った中で、どのような方向に進めていくかという部分が今課題になっているのではないかと思っております。

その中で、長野県におけるインバウンドの現状です。コロナが5類に変更されたことにより、訪日外国人数は、急速な回復基調にあります。県内を訪れるお客様についても、中国以外の水際対策が緩和されている地域に関しては、コロナ禍前と同水準、もしくは今後それ以上の水準というところを目指している状況になりつつあります。

一方で、例えば、北海道や沖縄といった県単位できちんとインバウンドに対して取り組んで

いる地域と比較した際に、マーケティングやブランディングの要素で、まだまだ伸びしろのある地域かなと思っております。

本日は、そのような課題等を共有させていただきながら、皆様と共通認識を持てるような場にさせていただければと思っております。

インバウンド推進協議会としては、以上です。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

次に、長野県索道事業者協議会さんお願いいたします。

(長野県索道事業者協議会)

皆さん、こんにちは。

今、長野県内で70社のスキー場がございまして、70社が参加をしてこの長野県索道事業者協議会をつくっているところです。また、この組織が北陸信越山岳観光索道協会の長野地区部会としても活動しております。そして、長野県内の索道事業の発展と観光事業の発展に寄与することを目的として活動しております。

スキー場の状況を申し上げますと、1990年～92年頃はスキーブームで、長野県内に2,000万人ぐらいのスキーヤーの皆さんがおいでになっておられました。ところがその後、バブルの崩壊等があり、スポーツの多様化、あるいは若者が減少しているというような諸々の理由で、昨今は減っているということも、皆さん既に御承知のとおりでございます。

コロナ前は、700万人ぐらいの目標を立てて、それぞれプロモーションをやっており、大体600～650万人ぐらいの入り込みでしたが、そこへコロナということになりまして、3年ばかり空白がございました。今シーズンが大体570万人ぐらいになったということで、コロナ前の650万人に比べると、大体88%ぐらいの入り込みになってきて、やや戻りつつあるということでもあります。その中で、インバウンドも場所によって多少違いはありますが、大体60%～70%のお客様が戻ってきておられます。

そのようなことで、来るシーズンについては、雪の状況にもよるわけですが、我々事業者は大いに期待しているところであります。

ただ、スキー場は今、大変な課題を抱えております。一つは、施設設備が非常に老朽化しているということでもあります。20年を超えている施設が大体93%以上になっており、当然更新しなければならないものもたくさんあるわけですが、なかなかそれができない状況です。それに加えて、古くなるとやはり修繕費が増大するというようなことで、経費の増大というようなこ

とでなかなか更新に至っていない。これが現況であります。こういったものは各事業者の力だけではなかなか解決できるようなものではないと思っております。

それから、これも皆さんもう既に御承知のとおり、地球温暖化の問題があります。温暖化による少雪、あるいはそれによる雪の確保がより困難になっております。そうしますと、当然営業期間が短くなって、いわゆる収益性が落ちることがございます。これに対して、それぞれの事業者が降雪機の設備を拡充していかなければならない。これが現実の問題として我々が直面している問題でございます。これもそれなりのお金もかかります。

そういったものが独自でできていけるものかどうか。これも様々であります。やはりこういったことも、県や国の御支援をいただきながらやっていかなければならない問題であろうかと思えます。

もう一点だけ申し上げます。昨今の労働力の不足です。特に我々スキー場の場合は、季節波動が激しく、冬だけの従業員の採用ということになりますので、非常に採用しにくくなっているというのが現実の問題であります。

それを解決するために、我々も努力しながら、例えば外国人の雇用等を積極的にやろうとしているわけでありまして。外国人を採用する場合、ワーキングホリデーがあります。日本が今契約している相手国は 29 か国で、ほとんどが先進国です。ですから、今来てもいいよ、あるいは呼びたいというような国との契約はないというようなことから、非常に採用しにくくなっているということがあります。

それからもう一つは、インターンシップです。外国の大学生に研修に来ていただいて働きながら勉強していただく、日本語を覚えていただく、こういうシステムがありますが、これも非常に制限がありまして、受入れ側の事業所が 100 人以下の従業員のところで、外国の大学 1 校との契約ができますが、5 人までしか受け入れできないわけです。

この辺の規制緩和を、やはり県から国のほうに上げていただいて緩和をしていただくと、こういう取組をぜひ一つ、この機会に皆様に御理解をいただいた上で、県議会の皆様からもよろしく願い申し上げたいところでございます。その他、幾つかございますが、それは各意見を言う場でまた言わせてもらいますので、取りあえず今の長野県索道事業者協議会の状況、あらましを申し上げました。以上です。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

次に、長野県旅館ホテル組合会さんお願いいたします。

(長野県旅館ホテル組合会)

皆様、こんにちは。今日はこのような機会をいただきまして誠にありがとうございます。

私ども、旅館ホテル組合会は昭和 44 年に生活衛生同業組合を設立して以来の流れでスタートをしております。平成 18 年に複数の宿泊団体が一つにまとまって、県としっかりつながっていいのではないかと先輩方の発想の下にまとまり、長野県旅館ホテル組合会という組織を編成しました。平成 24 年には、国際観光旅館連盟と日本観光旅館連盟の二つが一つになって旅館協会となりましたので、今、実質二つの組織と一緒にしたものといたします。

私どもの関係としまして、観光庁が公認している宿泊団体というのは全部で四つあります。国のほうで例えばユニバーサルツーリズムについて検討しましょうとか、LGBTの問題について研究しましょうとか、そういう議題になると必ずこの4団体に声がかかります。

私どもは、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会と日本旅館協会が一つになった形です。生活衛生同業組合というのは、厚生労働省管轄の組織でして、全国で今 15,000 者くらいの組織ですが、これは法律に基づいて組合を組織しているものでございます。ですから、そういった意味では、国とも密接な関係を持った組織体制であると、御理解をいただければ幸いです。

宿泊施設のあり方について御紹介したいと思います。

宿泊業というのは単に商売をやっ稼いでいるわけではなくて、実際には県内においてもいろんな地域でいろんな目的で来訪されるお客様がお泊まりになることを生業としている業界でございます。代表的な例を言いますと、観光やスポーツツーリズム、そしてビジネス使用、冠婚葬祭の関連、それから傷病の療養が主だったものと言われております。

いずれにしても、ほとんどのケースが所在する市町村外、あるいは県外からのお客様、そして今ではインバウンドということで訪日外国人、海外からのお客様にそれぞれ来訪いただいて、そこで消費をしていただくことによって、地域にいわゆる外貨の獲得につながるという流れができています。

それによって、現況では貿易関連の外貨獲得の産業としてトップ3に入るのが、今、観光というふうに使われています。こういった意味でも、単純に言って金のなる木はないわけで、お金はどこから動いてこなくてははいけませんので、持って来るのに一翼を担っていると御理解いただけると助かります。

そのほかに社会貢献という趣旨の取組もございます。当然ながら食品衛生については食品衛生法に基づいて厳格な管理をしています。また、コロナの初期段階では、2020 年の 4 月に知事と協力しまして、みんなで休業をしますという、思い切った政策に乗り出したのも、皆さんの記憶に新しいところだと思います。休業をしますということを全県挙げてやることは、本当に

歴史にないことだと思いますけれども、我々がまとまっていたからできたことだと認識しております。

また、災害時には各市町村、それから全国の連合会としても 47 都道府県とそれぞれの各都道府県の組合が、災害時の支援協定を結んでいまして、災害があった際、支援体制を整えるということで、私どもが窓口になって対応します。記憶に新しいところだと、台風 19 号災害のときは、県のほうで十分な施設があつて我々を使うことはあまりなかったのですが、それでも避難中にとっても心労が重なった人たちに温泉に入ってゆっくりしていただくなどのサービスの貢献をしたというところでは、県民の皆さんにも喜んでいただいたと認識しております。

また、同時にユニバーサルツーリズムに関しても、我々は大きな関心を持っています。特に長野県は、1998 年にパラリンピックを開催した歴史ある環境の中で、非常に障がい者の皆さんに対しては「信州のおもてなし」を持っています。お気づきでしょうか。障がい者という字で、「害」という字をひらがなで書いているのは長野県ぐらいです。それくらい心のおもてなしを持って対応するのが我々のポリシーだと思っています。これも県の皆さんとも一緒になって取り組んでいます。

それから SDGs の問題、ゼロカーボンに対することもしっかりやっています。脱プラスチック、それからフードロスをなくしていこうということに一生懸命取り組んでいます。3010 運動などは、特に我々も一生懸命になって取り組んだ、長野県でもなかなか知られていないことですが、そんなことにも取り組みました。

現状の認識としまして、先ほど索道協議会の方からもありましたが、我々も慢性化している人手不足に大いに悩んでいます。外国人人材の仕組みや制度は、事業承継にもつながる重要なことですので、ぜひともいろいろと御助言をいただいたり、一緒に国のほうにもアピールをしていただくお願いをしていきたいと思っています。

また、コロナの 3 年間に対応した融資の返済と金融支援も今大変困っているところで、これからも引き続きサポートをいただきながら、何とか事業承継をしていきたいと思っています。

持続可能な観光地づくりは、大変重要なポイントだと思います。ユニバーサルツーリズム、ハードとソフト、LGBT 対応、そしてオーバーツーリズム、それから外資による投資の懸念というのが大きな対策として考えられると思っています。

新たな観光財源の確保については、観光振興審議会において、部会を決めて一生懸命やるということになっていますので、今後も情報共有をしながらお願いをしていけることになると思います。

直近の課題として、つい最近、私ども、全国の連合会を通じて国に、新たな金融支援の対策や全国割に代わる新しい観光支援政策の要請をしました。観光支援政策は国に話を持っていっ

たときにもうお金はないという話でしたので、やはり地方自治体、各都道府県に委ねている傾向にあります。いまだそういった割引制度を11月下旬までやっている県が何県かありますけれども、これは各都道府県の自主財源において確保されているというところがございますので、長野県は早々と6月30日に使い切った状態でしたので、今後も何らかの形で資金調達をする仕組みが必要ではないかと考えております。

それから、LGBT対策についても大変大きな課題でございます。自分が女性であるという男性が女湯に入りたいと言われてもなかなか難しいところがございます。この辺のところをどう理解していくか、まさに法律は「理解促進法」でございますので、そういったことも踏まえて、いろんな面での対応支援をいただければと思います。

インバウンドの水際対策の緩和措置によって、この冬から大変多くの人が入ってくるようになりました。オーバーツーリズムという懸念が生じるくらいでもあります。国内外の観光産業の見通しが活発になっていることも歓迎したいのですが、必ずしも歓迎し切れない部分もございます。ある有名な北の地域では、もう既に時給が2,000円くらいまで上がっているところもありまして、大きな投資ができるところは簡単にできるでしょうけれども、小さいところは従業員が囲われてしまいますと、仕事が成り立たないという障害もございます。

そういうトラブルも発生してきていたりしているので、今後はそういうことをどうすべきだとか、また、不動産の売買が活発になりますと、同時に地上げが進みます。白馬の路線価格が、国内第3位の上昇率だということも発表されて大変衝撃を受けています。固定資産税が上がると、結果的に地元の住民負担が増えていきます。例えば、住むところの家賃が高くなると、もしかしたら住民が半減してしまう市町村ができてしまうのではないかという不安と懸念があります。地方自治体としてどう取り組むべきかということについては、これから議論をしていきたいと思っております。

最後にカスタマーハラスメントの問題です。お客様からバッシングを受けてしまい、大体弱い子たちがその対象になるので、若い人たちが、新卒でせっかく入っても1年も持たずに辞めてしまうというケースは結構あります。これは我々の業界としてはかなりの課題だと思っていますし、親御さんたちが安心して、子どもたちが独り立ちして生活できるような環境をつくっていくというのも私どもの責務だと思います。一緒にこういうことにも対応できるよう、戦えるように共有をしながら取り組んでいただければありがたいと思います。

以上、紹介でございました。ありがとうございます。

(埴橋副議長)

ありがとうございました。

次に長野県旅行業協会さんお願いいたします。

(長野県旅行業協会)

旅行業の現状についてお話をしたいと思います。

国内旅行につきましては、コロナ前と比べまして、個人客は 80%くらいまでは戻ってきたかなという感じであります。団体旅行・グループにつきましては 40~50%くらいといったところであります。アフターコロナとは言え収束したわけではないので、病院、福祉、介護、会社、社員旅行等につきましては、まだまだ厳しい状況にあります。

一方で、人手不足により、バスやタクシーはあるが、乗務員がいなくて受注ができない。宿泊施設の部屋は空いているが、人手不足で 60%くらいしか受入れができない。そして、円安・原油高による物価の上昇で、コロナ前に比べて、旅費が 20%~30%くらい増加しております。

海外旅行につきましては、コロナ前に比べまして、小グループは大体 20%くらいは戻ってきたかなという感じであります。団体・グループは、ほとんど戻ってきていないというのが現状であります。円安もあり、コロナ前に比べ、旅費が 2 倍近くになっているという現状であります。

また、インバウンドにつきましては、これから増加をしていくと思われませんが、現場においては問題点もありますので、後ほどグループでお話をしていきたいと思っております。

これから旅行業のあり方、有り様は大きく変わっていくと思います。旅行業の主でありました団体旅行は、少子高齢化、人口減により、これから減少していくと思われれます。後ほど何点か課題について、提言、お願いをしていきたいと思っております。

どうぞ、よろしく申し上げます。

(埴橋副議長)

ありがとうございました。

最後に、日本旅行業協会関東支部長野県地区委員会さんお願いいたします。

(日本旅行業協会関東支部長野県地区委員会)

改めまして、こんにちは。

我々の組織については皆さん御存じのように、通称 JATA と言われております。どちらかというと、全国的な組織を持っている旅行会社の組織であります。本組織について、長野では 8 社で構成されており、本日は 4 社が御参加させていただいております。よろしくお願いま

す。

先ほど長野県旅行業協会からも現状の話がありましたけれども、おおむね、JATAの長野県地区に所属している会社についても同様でございます。本当にこの3年間は、コロナで非常に苦難な3年間でありましたけれども、全国のGoTo トラベルから始まって、県民割、それから最後には全国旅行支援が、我々にとっては救世主になったというところで、大きな国内旅行の復活に向けての支援になったということは間違いありません。

あと、コロナで旅行者が少なくなったものの、今日参加されている皆さんの団体と同様、ツーリズム産業について、阿部知事を含めて県議会の皆様にも本当に我々の業界というのは観光に従事している会社、組織の裾野が非常に広いと分かっていただいたということで、我々のステータス、また、立ち位置が少し上がってきたかなというところはコロナを受けて感じております。感謝を申し上げます。

ただ、現状において海外旅行についてはまだまだ、先ほどもありましたように、我々にとっても約4分の1しか復活していません。国内旅行についてはほぼ復活はしてきているものの、やはり全国旅行支援が終わった後の落ち込みについては、少しずつ影響は出始めているかなというところでもあります。これから長野県への誘客を促進するためには、様々な課題があると我々の業界も認識しております。詳しくはグループでの意見交換の場で申し上げたいと思っておりますけれども、簡単に五つ申し上げたいと思います。

一つは、我々の業界も含めた人材不足、要員不足です。これによって他県から、あるいは海外からお客様が来たくても泊まれない状況。また、バスなどの交通機関が手配できず、乗りたいくても乗れない状況で少しもったいないという現状があります。

二つ目は、二次交通の問題です。バスも電車も含めて、コロナ前からもいろいろ言われておりましたけれども、ここに来て、やはり二次交通の問題がこれから誘客の部分で妨げになってくるというところで、この長野県特有の二次交通の脆弱さを何とか少しでも解決していきたいなという課題でございます。

三つ目は、松本空港の利用促進についてです。従来から言われていますが、長野県に唯一ある空港の利用をどんどん促進をしていきたいところでもありますけれども、路線の拡充、復活、それから海外に向けてのチャーター、この辺も含めてなかなか進まないというところがあります。今後の誘客促進には必ずこの空港を利用した誘客が不可欠だということがあると思えます。

四つ目は、外国人の取扱いについてです。長野県も一気に、外国人が増えてきていますけれども、様々なハード面とかソフト面の課題が出てきております。一つ例を取ると、主要な駅である長野、軽井沢もそうですけれども、大きな荷物を持ってきた外国人の荷物を預ける場所、

コインロッカーも含めて少ない現状があり、外国人が困っている姿が長野においても見られます。そういったものも含めて、県を中心に対策をぜひお願いしたいというところでもあります。

最後に、長野県は、ここ数年、いろいろなところで災害が起きております。観光県として災害に強い基盤づくりを県議会にも助言をいただきながら、また、観光と災害は密接な関係があり、誘客につながる場所があると思いますので、そのあたりの課題があるということを確認していただくということで、後はまた詳しくは述べさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。以上です。

○グループディスカッション

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

続いて、意見交換に入ります。テーマは先ほど議長が申し上げましたように、「長野県観光の現状と目指すべき方向～コロナ禍からの再生に向けて～」です。観光を取り巻く様々な現状や課題を共有し、課題解決に向けてどのように取り組んでいくのか、あるいは県への御意見や御要望などについて、五つのグループに分かれて意見交換をお願いします。進行は各グループの広報委員が行いますので、50分間での進行に御協力をお願いします。

それでは、事務局でグループ分けを行ってください。

(グループディスカッション 50分間)

○意見交換感想発表

(埋橋副議長)

グループディスカッション、お疲れさまでした。

それでは、各グループを代表して広報委員の議員から意見交換の内容・感想を発表してください。進行の都合上、1グループ3分以内厳守でお願いいたします。

まずAグループから、林議員、お願いします。

(林議員)

それでは、Aグループからになります。Aグループに御参加いただいた皆様からの意見をまとめていきますと、まだまだコロナ禍からコロナ前への状況へ、完全な回復というところまでは至っていないところがあるということです。やはりまだ長野県の魅力というのが他県や海外へと伝わり切れていないのではないかと御意見をいただいております。

というのは、長野県として一体となったプロモーション戦略のターゲットが定まり切っていないのではないかという御意見をいただいております。観光部であったり、交通政策課であったり、部署ごとに共通した政策を取っていく必要があるのではないかと言われております。

また、様々な団体から御意見をいただくところですけれども、労働力、担い手の不足が困っている状況であるという御意見をいただいております。そういった労働力不足に対応するために、外国人人材の活用を進めていってはどうかという話がありました。外国人人材の方が現場で活躍するためには、語学への対応、県に関しては学校等での学習であったり、ビザの緩和をお願いしていくという形で、より一層外国人人材の活躍について対応をお願いできないかという御意見をいただいております。

様々な御意見をいただいたところです。Aグループに関しては以上でございます。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

次にBグループから、丸茂議員、お願いします。

(丸茂議員)

今日は、本当に非常に充実した意見交換だったと思います。今後の県行政にしっかりと反映させていきたいと思っております。

まず、簡単に意見をまとめていきますと、今、林議員からもお話が出ましたけれども、人手不足の問題については、日本人のみならず、外国人の採用を今後進めていかなければいけないだろうという意見がありました。その中において、例えばワーキングホリデー等の多角化や期間の延長等、そういったものを国に働きかけながら、多様な人材確保を目指していくべきであるというような意見をいただきました。

また、インバウンド対策として、ハードの充実、例えばWi-Fiの整備ですとか、標識の確保、そういったものをしっかりと県としてやっていき、外国人に対するホスピタリティを上げていくことが非常に重要なのではないかという話をいただきました。

また、県としてしっかりとブランディングというか、観光立県長野を目指していくという意味においては、県がしっかりと先頭に立ってやっていくべきであると。そして、広域連携においては、やはり今の行政単位、例えば振興局単位ではなかなか機能し切れないところもあるので、観光という視点においては、振興局という単位を超えた観光のアピール等、協力が必要なのではないかという意見をいただきました。

そしてまた、災害に強い県づくり、これがまた対インバウンドに対しては非常に重要になっ

てくるのであろうという部分でありますので、災害対応と関連づけた観光対策ということをしつかりとやっていかなければいけないという話がありました。

また、税の財源の問題ですとか、いろいろ貴重な意見をいただいたのですが、またしっかりとまとめていただいて、県にしっかりと提起していきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

次にCグループから、グレート無茶議員、お願いします。

(グレート無茶議員)

お疲れさまでございます。時間がまだまだ足りないというのが正直なところですが、Cグループでは、いろいろな課題の前に、先に夢を語ってもらおうというか、こういう観光にしていきたいというお話をそれぞれのお立場でいただきました。

やはりその話をいただくと、長野県というのは魅力あふれる県というのは間違いないのですが、いかんせん課題もそれぞれにかなりあるというところに着地するといった感じでして、皆さん人材不足というのが、まず一つの課題だということで認識されております。

人材不足の解消はどうしたらいいのかという話の中で、それぞれのお立場でいろいろあるのですが、まず法律の改正が必要なのではないかというお話もございました。例えば、人数制限、最低何人を置かなければいけないという話を法整備することによって、要はDX化を進めることによって、人をそんなに使わなくてもやっていけるのではないかと、DX化をもっと上手に活用して、人材不足というのを解消できるのではないかと話があります。それはやはり、法律の改正という大きな壁があるというのが一つでございます。それと、雇用促進住宅をもう少し増やしていくべきではないかというお話などもいただいて、行政としてお手伝いができる部分、やらなければいけない部分というのが、人材不足についてはかなりあると感じました。

それと、もう一つですが、やはりこの魅力ある長野県をもっと多くの人に知っていただくには、松本空港をより充実させる必要があるのではないかと、やはり長野県内の交通のインフラがまだ弱いのではないかと、要は二次交通の問題というものを解消する必要があるのではないかと皆さんがおっしゃっていました。

特に、Cグループでは、二次交通についてお話をさせていただいたのですが、やはり今持っているものを有効に使うというのは第一ですし、あとは新しいインフラをつくるに当たって、

交通は十年で投資回収できないという壁もまだまだあるといった中で、行政はもっと長い目で交通のインフラを整備する必要があるのではないかといったお話もいただきました。このグループでは、そういった人材不足と二次交通の充実というお話を中心にお話をさせていただきました。

以上でございます。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

次にDグループから、高村議員、お願いします。

(高村議員)

Dグループですけれども、コロナの中で、本当にいろいろ落ち込みはあったわけですが、皆さんの頑張りや、国や県の特別な底上げ支援策があつて、長野県は全国的に見れば落ち込みがトップクラスで少なかったのではないかという御意見があつて、全県の観光業の皆さんの御奮闘というものが本当にあつたと思います。

その中で、今インバウンドなどお客さんの回復もあるのですが、まだまだ病み上がりという状況のこともたくさん吐露されました。やはり一番は人手不足ということがありまして、部屋は空いているけれども、そこに働く方の確保ができないということがございました。

また、パートで働きたいけれども、103万円問題があつてこれ以上は働けないとか、あるいは外国人の方を安い労働力ということではなくて、日本人の採用と同じように大事な労働者として対等にしっかりと働いてもらうということも大事ではないかとか、あるいは地域おこし協力隊の方に3年間しっかりとチャレンジしていただいて、3年たったら自立してもらえようなことも観光業としても考えていきたいというお話がございました。

また、コロナ禍から回復途上ですが、お客さんが戻ってきてもタクシーが不足していて、お客さんのニーズに対応した交通がないということが非常に課題になっているということでございました。それから、国定公園内で多様性に対応する様々な工夫や改装などしたいが、国定公園内の規定が厳しく、環境改善にチャレンジできないというような、そういった規制緩和を求めのお声もございました。

それから、これは良いことなのですが、ワーケーションの御要望が多く、今年も計画以上に來ていただいているということで、多様性に対応していくということで、展望が開けてくるというお話もございました。

そして、本当にまだまだ病み上がりで、資金のやりくりが大変な中、今まで支援をしていた

だいたいの返済が始まっております。物価の高騰などもございますので、資金調達や運営資金などの支援も引き続き検討していただけないかという強い御要望もございました。まだまだたくさんありましたけれども、まずはそんなところでございます。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

最後にEグループから、勝山議員、お願いします。

(勝山議員)

ありがとうございました。

御意見が全然まとめられてないのですが、最初に課題と捉えていることを挙げさせていただきます。まずバスドライバーがいないということ、これが非常に苦勞されている。また、観光業に関してのデジタル化、DX化が非常に遅れているので、もっとDXを進めていかなければならないということ。

人材不足の関係で、若い人に選んでもらえるような給料であったり、また、最初に説明があったカスハラの関係、あれで本当に若い人の心が折れてしまったりするので、そういったものをしっかりと全体でサポートできるような体制をつくっていかねばいけない。

長野県は繁閑の差が激しいというか、暇なときと忙しいときの比率が非常に多いと、そういうものを何とか県全体のスケールでうまくフォローするべきではないかという御意見をいただきました。

そして、特に情報発信について様々な御意見をいただきました。信州、長野という大きなブランド力はあるが、個々の地域になるとその魅力の発信というのはまだまだできていないので、全体と地域の両輪の具体的な情報発信も必要なのではないかという御意見をいただきました。

また、石川県や静岡県では、県で観光スポットをまとめたパンフレットを刷り、それを観光の各所に置いてあると、そういったものをしっかりと県で取り組んでほしいという御意見をいただきました。また、特に食と、そういったものを組み合わせて観光プロモーションをしっかりと作ってほしい。また、紙とデジタルの両方をうまく融合させた情報発信を工夫してほしい、そのような御意見をいただきました。

まだまだあるのですが、まとめきれっておりませんが、以上で終わりとさせていただきます。ありがとうございました。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。それでは、残りの時間がほとんどないのですが、各団体の皆様やほかの議員からも御意見や感想を頂戴したいと思います。発言する方については、挙手をしてください。私が指名しましたら、所属とお名前を言っていただき、発言をお願いします。

まず、3名会派所属で出てきておられますけれども、それぞれお願いをしたいと思います。

それでは、垣内議員。

(垣内議員)

今日はありがとうございました。いろんなお話も出ましたし、直接御意見を聞かせていただいて、非常に有意義な時間となったと思います。

一番良かったのは、皆さんやはり長野県にはたくさんの魅力があるということを再認識できたと思っています。なので、やはり長野県全体として観光業をもっと盛り上げて、連携して一致団結していければと強く感じた次第でございます。

これからも御協力のほどよろしくお願いします。今日はありがとうございました。

(埋橋副議長)

続いて、高島議員。

(高島議員)

事業者の皆様から生のお声を聞いて、課題が山積みなのかなと感じました。消費者ニーズを的確に捉えて、一円でも多く取りにいける観光振興をゼロから考えていかなければいけないかなと切実に感じました。

またいろいろ御意見も伺いながら、育てていける観光であってほしいなと思っております。

ありがとうございました。

(埋橋副議長)

それでは、奥村議員。

(奥村議員)

本日は、ありがとうございました。なかなかこれといった即効性のある特効薬というものはないのでございますけれども、今いただいた二次交通の問題、そしてまた人手不足、コスト高、いろいろなことに県議会としても対応していかなければいけないと感じさせていただきました。

私もいろんな地域を回らせていただいたのですが、食材というものを少しお聞きすればよか

ったなと思っております。長野県には信州サーモンはじめ、黄金シャモ、また、リンゴもすばらしい品種があるので、その辺も売りにして誘客を図られたらどうかと聞けばよかったなと今後悔しておりますけれども、そのことも含めて応援していきたいと思っておりますので、皆様、またよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。

時間も限られていますけれども、今日参加いただいたそれぞれの皆様、どうしてもこれはこの場で言うておきたいということがございましたら、手を挙げていただきたいと思っております。

長野県旅館ホテル組合さん、お願いします。

(長野県旅館ホテル組合会)

ありがとうございます。

今のまとめのお話を聞かせていただいて、皆さんそれぞれ分かれてお話をして感じたことだと思いますけれども、やはり観光は裾野が広い分いろいろな課題も多いです。でも、今回のような良い機会を与えてもらって、我々業界人としてもすごく感謝しています。ありがとうございます。

ぜひ言いたいというのは、こういった機会というのは1回で終わりではなく、また、規模が小さくなったり、ジャンルを区切ったりいろいろなやり方はあるかと思っておりますので、ぜひぜひ今後もこういった県の方々、県の議員の方々と、現場のそれぞれの職種の方によるこういう場を引き続き設定していただければうれしいと思っております。

まずはありがとうございました。以上です。

(埋橋副議長)

ほかの方でございませうか。

では、長野県旅館ホテル組合会さん、お願いします。

(長野県旅館ホテル組合会)

今も私どもの役員からの話と同じように、まずもって今回は本当にありがとうございます。

今後も、これを機会に観光議員連盟の皆様ともしっかりとタッグを組めるように、特に私どもの若手青年部たちがお伺いしていろいろとお話をさせていただくようなことも考えております

ので、ぜひお近づきになりましたら、お話を聞いていただけるように御配慮をいただければと思います。

これからも一体となって、ワンチーム長野で、我々もしっかり、47 都道府県で一番のリーディング県となりますよう、ぜひ皆さんと共に歩んでいきたいと思ひます。

よろしくお願ひ申し上げます。

(埋橋副議長)

ありがとうございます。ほかの方、ございますか。

ほかに御発言もあろうかと思ひますが、時間の都合もありますので、次に移らせていただきたいと思ひます。

○議長所感

(埋橋副議長)

最後に、佐々木議長から御挨拶を申し上げます。佐々木議長、お願ひします。

(佐々木議長)

ありがとうございます。今回のテーマの「長野県観光の現状と目指すべき方向性～コロナ禍からの再生に向けて～」ということで、本日は限られた時間の中で大変熱心な意見交換ができて、本当に心より感謝申し上げます。

意見交換では、多くの貴重な意見をいただけたと思っております。また、様々な立場や様々な地域からの参加によりまして話題も広がったのではないかと感じました。意見交換では、私はAグループに参加させていただきました。その中で、施設の老朽化対策、インバウンドの問題点、金融支援策、二次交通の整備、それぞれの災害対策、そして何よりも人材不足による外国人労働者の研修制度など、本当にすばらしい御意見をいただきました。ありがとうございます。

長野県インバウンド推進協議会の皆様、長野県索道事業者協議会の皆様、長野県旅館ホテル組合会の皆様、長野県旅行業協会の皆様、日本旅行業協会関東支部長野県地区委員会の皆様、いろいろな御意見を聞かせていただき、本当にありがとうございます。観光に携わる皆様方と、国、県、市町村また各種団体の皆様方と、地域の皆様方が同じ方向性を向いて一体となって取り組んでいく必要があるのかなと改めて実感をした次第でございます。

私たち県議会議員といたしまして、本日いただきました御意見をしっかりと受け止めさせていただき、今後の議会活動に生かし、これからの長野県観光の持続的発展のために努力をして

いかなければならないと実感をさせていただきました。

また身近で開かれた県議会を目指しまして、これからも本日のような活動を続けていきたいと思しますので、また御協力のほどお願いをいたします。

結びに、御参加いただきました団体の今後のますますの御発展と、御参加いただきました皆様方、また、各種団体の皆様方の御健勝と御活躍を祈念申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

○閉会

(埋橋副議長)

佐々木議長、ありがとうございました。

以上をもちまして、「こんにちは県議会です」を終了といたします。参加者の皆さん、そして、傍聴をいただいた皆様、誠にありがとうございました。

本日はお疲れさまでした。